

鳥取市における居住地変化の動向の解明に関する調査研究報告

1-1. 目的、概要

本市において、今後、急激な人口減少・高齢化が進む中、利便性の高い市民生活の持続的な確保や安心して住み続けられる地域づくりを目指している。これは、市民サービスの拠点として、中心市街地を「中心拠点」、各総合支所周辺等を「地域生活拠点」と定め、各拠点や「その他の集落地」を利便性の高い公共交通でつなぐ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を本市の将来像とし、今後、推進していく必要がある。

そこで、中心拠点や地域生活拠点周辺の人口動向やアクセス性の変化を明らかにすることにより、今後の「多極ネットワーク型コンパクトシティ」関連施策へ反映させることを目的として調査を実施した。

1-2. 調査概要について

○中心拠点および地域生活拠点への時間距離分布を用いることにより、各拠点へのアクセス性の向上が、各地域の居住地へどのような影響を及ぼしているかを検証した。(国勢調査 H12~22 使用)

○具体的には、各拠点毎における、時間距離分布の**平均**(各拠点への移動時間平均)、**標準偏差**(居住地のばらつき程度)、**歪度**(各拠点に対して居住地の偏り)、**尖度**(人口の集中度合い)の8項目。(4項目×2箇所)

○例えば、**平均**と**標準偏差**の数値が**減少**、かつ、**歪度**と**尖度**が**増加**→拠点周辺の人口が**密集傾向**にある。

※各拠点への平均移動時間距離が短くなり、標準偏差が減少傾向を示す→各拠点周辺へ人口が密集
歪度と尖度が増加傾向を示す→上記同様各拠点周辺へ人口が密集

1-3. 調査結果

○**赤**の地域は、「鳥取地域および福部地域、用瀬地域」→全8指標が各拠点へ密集傾向を示しており、中心拠点、地域生活拠点両方の周辺に、人口が密集しつつある傾向が見受けられる。

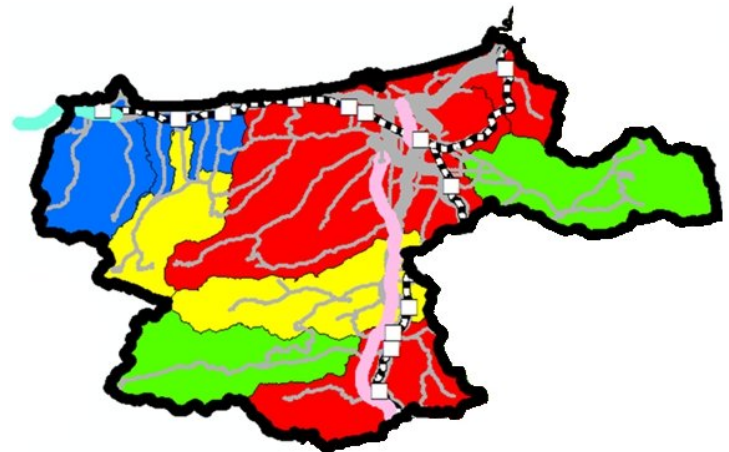
○**青**の地域は、「青谷地域、気高地域」

→中心拠点に対しては平均と標準偏差は密集傾向を示したが、地域生活拠点に対しては変化が見られなかった。

○**黄**の地域は「鹿野地域、河原地域」

→全8指標のうち7指標が分散化を示した。地域生活拠点までの歪度と尖度が共に分散化を示しており、地域生活拠点周辺での低密度化が見受けられる。

○**緑**の地域は、「国府地域、佐治地域」→全8指標が分散化を示しており、中心拠点や地域生活拠点両方に対して、低密度化が見受けられる。



2. 調査結果を受けて鳥取市の今後の取組

今回の調査により、中心拠点および地域生活拠点への人口動向の傾向がわかった。

今後、2019年までには、市民生活を支える地域生活拠点として必要な生活サービス機能(福祉、子育て、商業等)や、交通ネットワーク整備が人口動向にどのように影響するかの検証を行い、地域ごとに効果的な施策を検討していきたい。

また、5年毎の都市計画基礎調査データ(平成30年度予定)を活用し、直近の動向を分析することにより施策の有効性を総括しながら、本市が目指す2040年の将来像である「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を実現し、効率的で利便性が高く、安心して住み続けられる地域づくりを目指し、取り組んでいく。